



# サンフランシスコ日本語補習校 運営の現状と課題

Aug. 22, 2009

サンフランシスコ日本語補習校・理事

松波 博之

# Topics

1. 設置目的、教育目標、運営体制
2. 運営環境の分析、現状認識
  - 1) 児童・生徒数の推移
  - 2) 取り巻く環境
  - 3) ベイエリア日本語教育の中での位置づけ
  - 4) SWOT分析
3. 課題と対策案
  - 1) 多様化する児童・生徒への対応
  - 2) 現地スタッフによる補習校経営の確立
  - 3) 保護者・地域とのより良い関係の構築
  - 4) 学校運営の一貫性と柔軟性
4. まとめ

# 補習授業校の設置目的

補習授業校は、

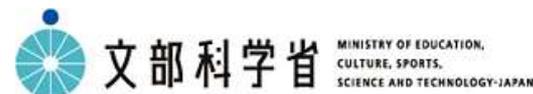
現地校に通学する児童生徒が、【対象】

再び日本国内の学校に編入した際にスムーズに適応できるよう、【目標】

基幹教科の基礎的・基本的知識・技能および日本の学校文化を、【内容】

日本語によって学習する【方法】

教育施設である。



文部科学省ホームページより

# SFJLCの教育目標

目標

日本の理解と  
社会への適用と貢献

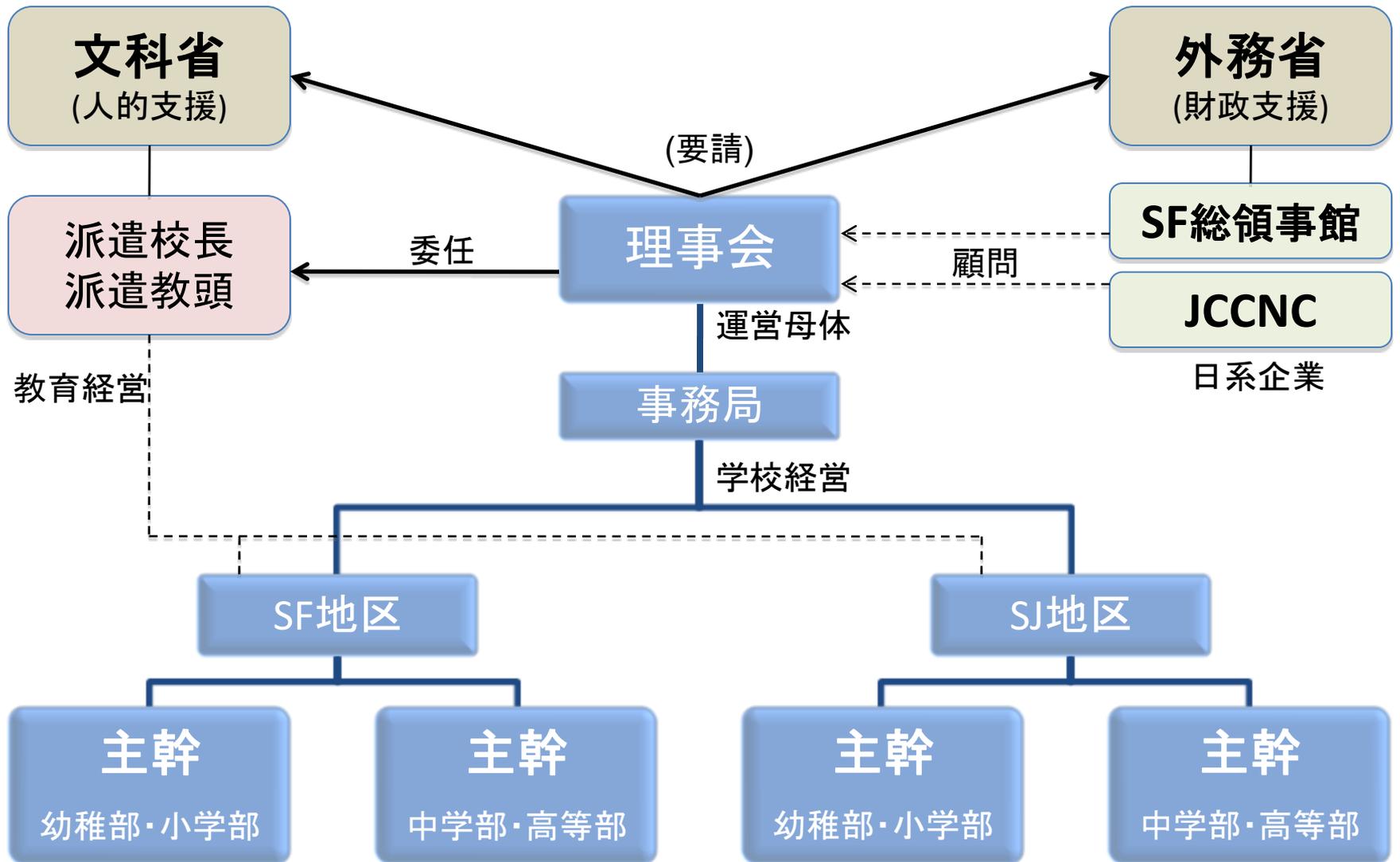
学習力

協調性

自立

日本の学校教育  
多様な仲間との交流

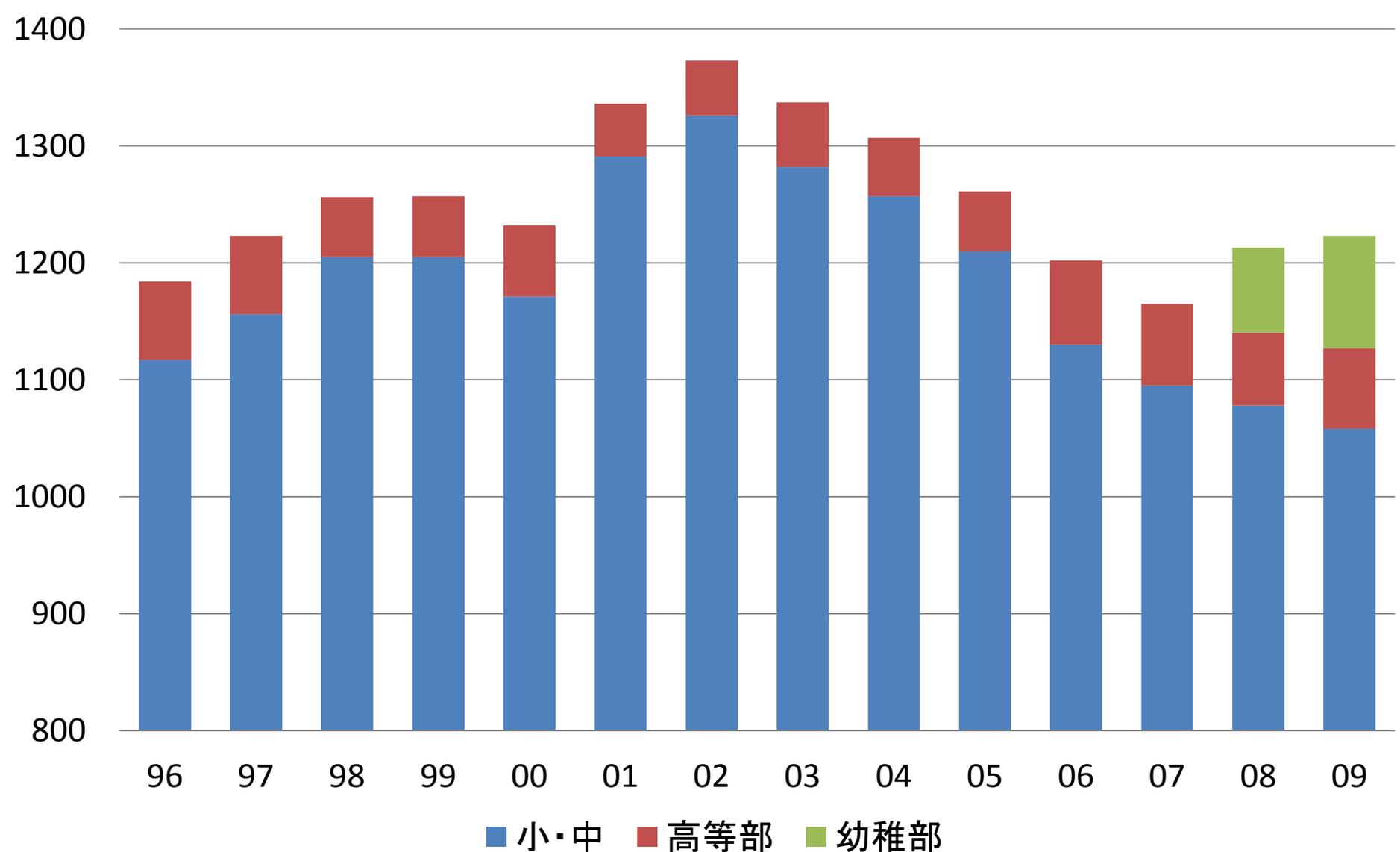
# SFJLC 運営体制



# Topics

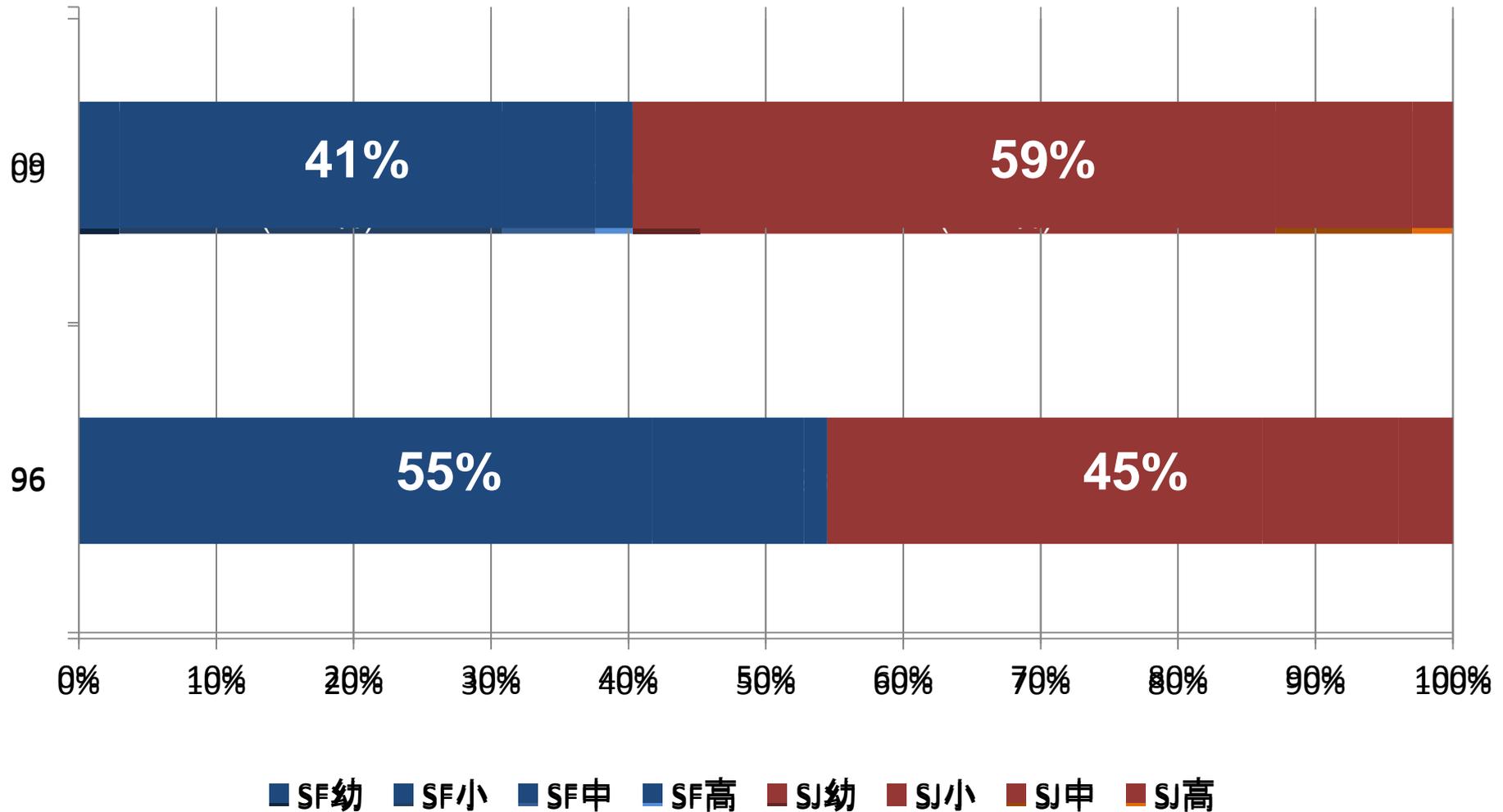
1. 設置目的、教育目標、運営体制
- 2. 運営環境の分析、現状認識**
  - 1) 児童・生徒数の推移
  - 2) 取り巻く環境
  - 3) ベイエリア日本語教育の中での位置づけ
  - 4) SWOT分析
3. 課題と対策案
  - 1) 多様化する児童・生徒への対応
  - 2) 現地スタッフによる補習校経営の確立
  - 3) 保護者・地域とのより良い関係の構築
  - 4) 学校運営の一貫性と柔軟性
4. まとめ

# SFJLC児童・生徒数の推移

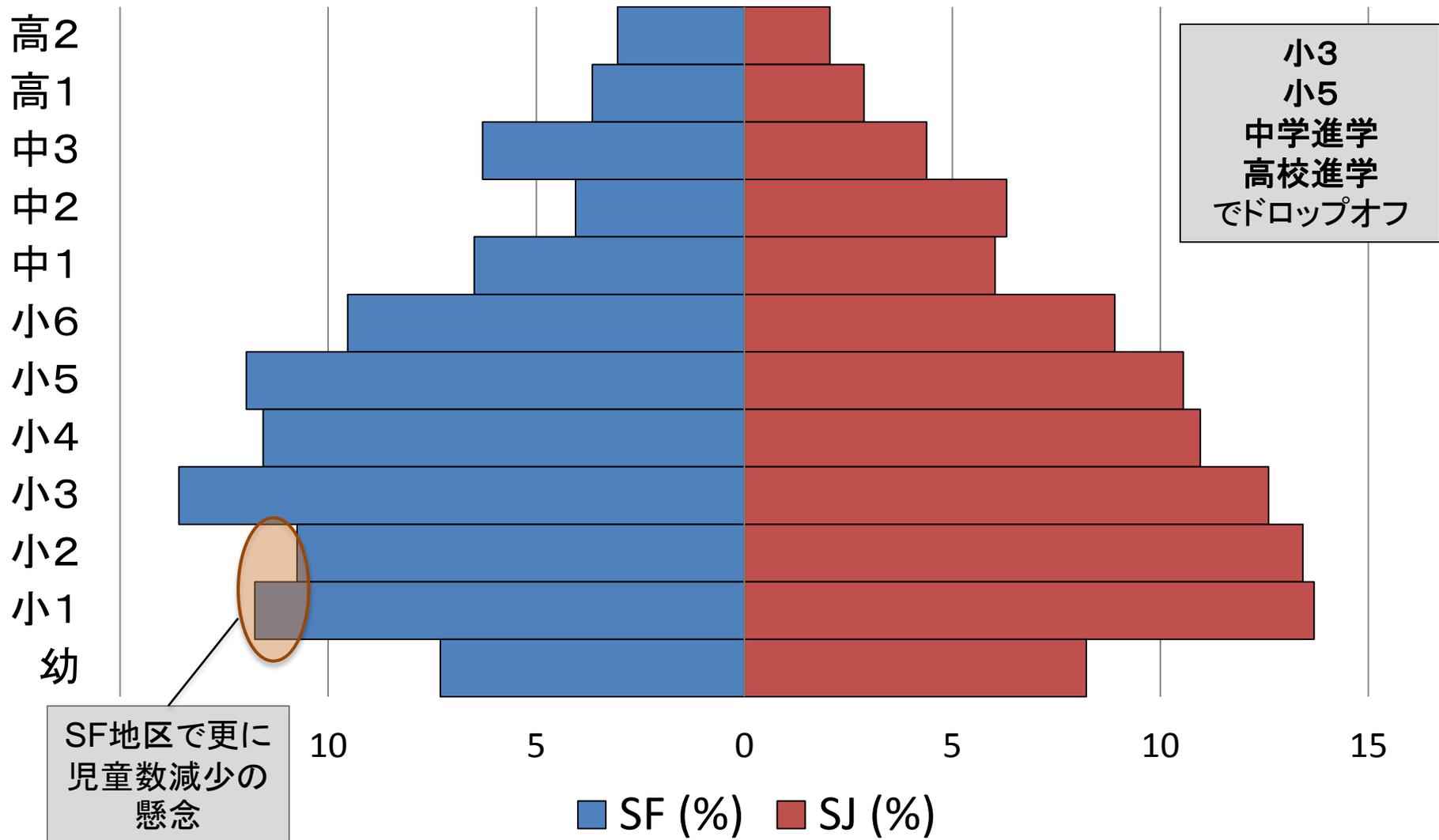


# SFJLC児童・生徒比率の推移

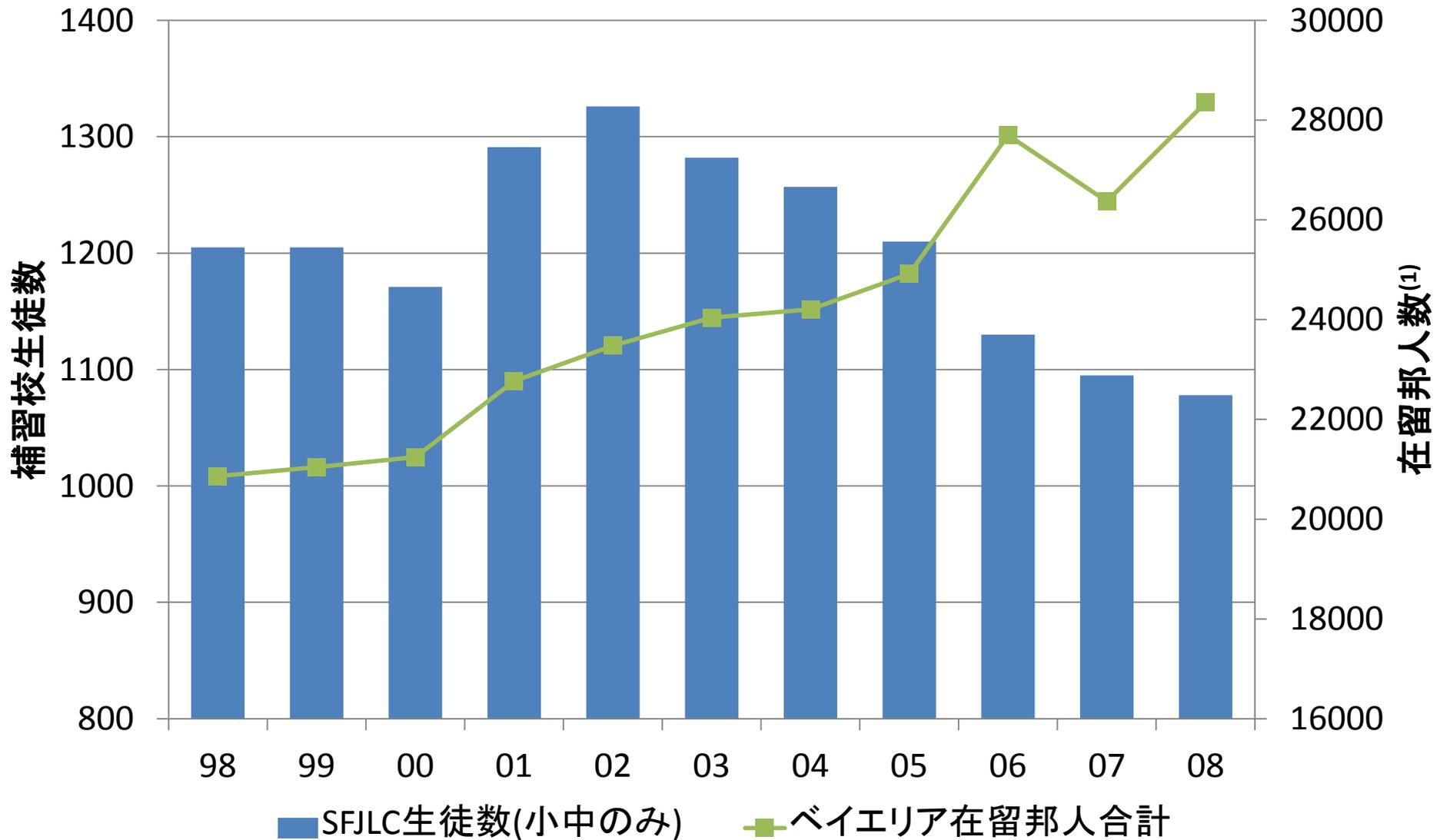
児童・生徒比率 '96 vs. '09



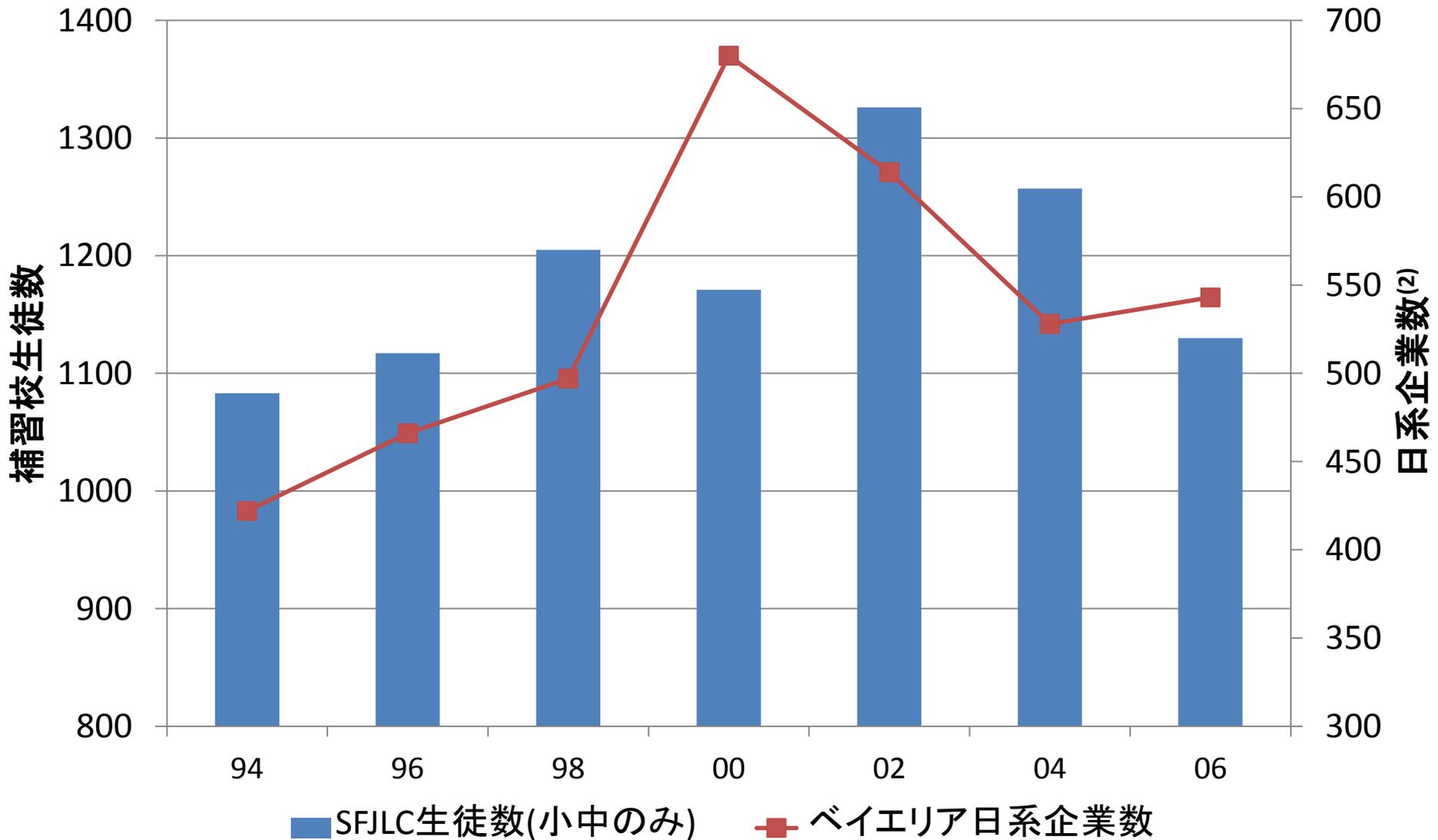
# '09年度 学年別ピラミッド



# 在留邦人数との相関関係

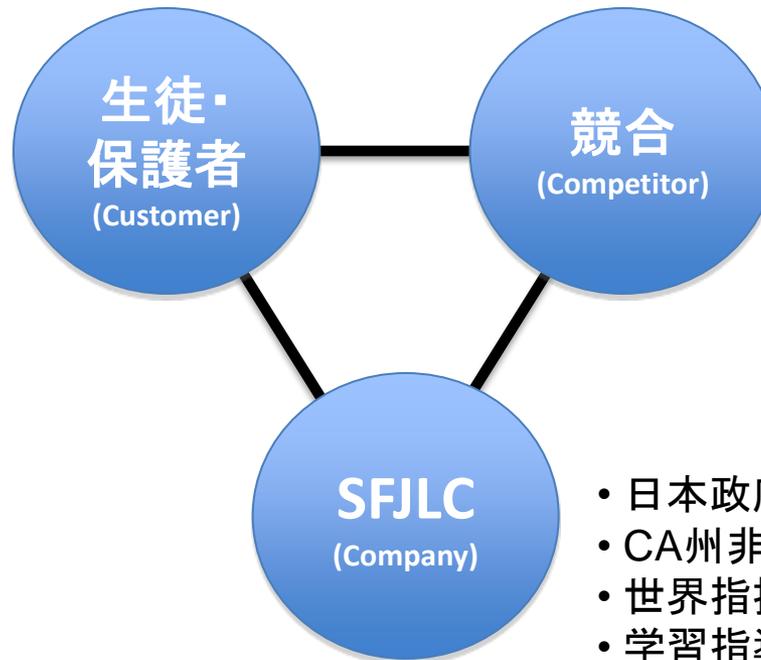


# 日系企業数との相関関係



# SFJLCを取り巻く環境

- ベイエリア在留邦人数増加傾向<sup>(1)</sup>  
(就学年齢人口についても要調査)
- 小3,5,進学タイミングでSFJLC離れ
- SF小で児童数減少の懸念
- 滞米期間の長期化
- 国語力の格差の広がり
- 保護者ニーズの多様化
- 複数の学校選択肢をもつ
- 日系企業の撤退/縮小
- SAT II (Japanese)



- 独自の教育プログラムの提供  
(日本語専科、表現、etc.)
- 受験/進路指導
- 入学条件/授業料を比較的高く設定
- 少人数制
- 自校舎を使った生徒の作品展示、理科実験実施
- 漢字検定、通信学習サービスの提供

- 日本政府の認可校<sup>(3)</sup>
- CA州非営利教育団体公認<sup>(4)</sup>
- 世界指折りの大規模補習校
- 学習指導要領に準拠した学習指導
- 経営母体は選挙選出による理事会
- 現地校の校舎を借用
- 主幹制度
- 派遣教員3名体制
- 慢性的教員数不足

# バイエリア日本語教育の中での位置づけ

語学学校

カルチャースクール



幅広い教育・生徒対象



公立学校

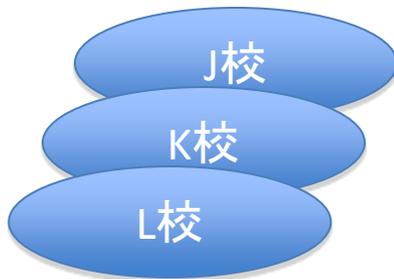


↓  
高等部

日本語学習  
特定教科の指導



日本の学習習慣  
日本の学校文化・行事



(進学)塾

進学・成績重視

進学校

# ベイエリア日本語教育の中でのSWOT分析

## Strength

- ベイエリア最大の日本語学校
- 文科省認定校、派遣教員、外務省からの支援
- 学習指導要領に準じた教育提供
- 様々な仲間と協調し、助け合う環境
- 幼、小、中、高までの一貫教育プログラム
- 日本的な学習習慣、学校文化の提供
- 創立40年の歴史と実績
- 熱心な保護者ボランティア
- JCCNC他、日系企業のバックアップ
- SF/SJの両地区に拠点をもちBay Area 全体をカバー
- 比較的安価な授業料

## Weakness

- クラスの中の国語力の格差が大きい
- 教員は、SFJLCの給与だけで生計を立てるのは困難
- クラス担任が途中で変わるリスクが他校に比べ高い
- 少人数、個別レッスンなどにやや限界あり
- 自前の校舎がない為、授業内容に制限
  - ・植物栽培、調理実習、理科実験などが難しい
  - ・児童・生徒の作品の継続した展示が困難
- 週末を使った現地校の活動との両立が困難
- 保護者のボランティア負担が比較的大きい
- 3,4歳児を対象にした幼稚部クラスがない
- 国際学級、日本語専科プログラムがない

## Opportunity

- 創立40周年を記念した広報、知名度アップ
- 高等部をフラグシップとする魅力度向上
- 幼稚部・二年保育の検討
- ベイエリアの日本語教育ネットワークを形成する上で、リーダーシップを発揮
- 在外日本語教育施設 – 教育先端校
- ITを活用した教育プログラム、他校との交流
- East Bay地区への対応
- 奨学金制度

## Threat

- 他補習校、塾などの選択肢の広がり
- SFJLCは教育水準が低いといった誤解の広がり
- 短期組: 日本帰国前に、補習校を辞め進学を目的とした他校(塾)へ転校
- 長期組: 授業スピードや勉強量についていけず退学
- 駐在員、派遣社員の減少、生徒数の減少
- 教員の「数と質」の確保
- 校舎が確保できない心配
- 現地校、地域住民からの苦情の恐れ

# Topics

1. 設置目的、教育目標、運営体制
2. 運営環境の分析、現状認識
  - 1) 児童・生徒数の推移
  - 2) 取り巻く環境
  - 3) ベイエリア日本語教育の中での位置づけ
  - 4) SWOT分析
- 3. 課題と対策案**
  - 1) 多様化する児童・生徒への対応
  - 2) 現地スタッフによる補習校経営の確立
  - 3) 保護者・地域とのより良い関係の構築
  - 4) 学校運営の一貫性と柔軟性
- 4. まとめ**

# ステークホルダーから見たSFJLCの課題

教育現場との関係  
直接的 | 間接的

## 課題(1) 多様化する児童・生徒への対応

- 長期滞在児童の比率増大
- 日本語能力差の拡大
- 保護者ニーズの多様化
- 児童/生徒のアイデンティティ、学ぶ意欲への対応
- 学年が上がるにつれ補習校離れが加速

## 課題(3) 保護者・地域とのより良い関係の構築

- 学校の情報開示が不十分
- 地域への働きかけが不十分
- 日本語教育ネットワークの形成
- 帰国対策、各種検定試験の提供
- 法人会員との関係強化
- 地域/借用校との友好関係維持・強化

外部

内部



- 教員数の安定確保
- 教員の教育力の向上
- 現地採用教員の主体性の向上
- SFJLCに合ったカリキュラム作成、教材開発、教育環境整備
- 理社合科
- 主幹の任期/異動、次期主幹の育成

- 時代とニーズの変化に応じ、活気と魅力に満ちた学校づくり
- 「補習校」を誇りに思える環境作り
- 理事会といえど、補習校に対する理解が不十分、また数年で入れ替わる
- 魅力ある職場環境、福利厚生
- コンプライアンスに基づく学校経営

## 課題(2) 現地スタッフによる補習校経営の確立

## 課題(4) 学校運営の一貫性と柔軟性

# 課題(1) 児童・生徒の多様化への対応

	短期滞在・帰国を前提	長期滞在・もしくは永住	
主たる目的	現地校では学べない国語、社会を学び、帰国/進学に備える	日本語の保持、日本文化を身につける	
期待される授業科目	国、算(数)、理、社	国語を中心	
期待されるレベル	日本の公立校とほぼ同レベル	基礎、基本に限定	
子どものアイデンティティ	自分は「日本人」	世界の中の「日本人」	「日本人/アメリカ人」の狭間で葛藤
補習校での学習意欲	必然/当然	自ら学ぶ意志あり	目的意識が薄い
日本語能力	問題無し	学習言語能力あり、または付ける努力	日常会話能力あり 学習言語能力に疑問

# 課題(1): 補習校が目指すべき方向性

## 多様性に対応したクラス編成のあり方

### 現在のクラス編成を堅持

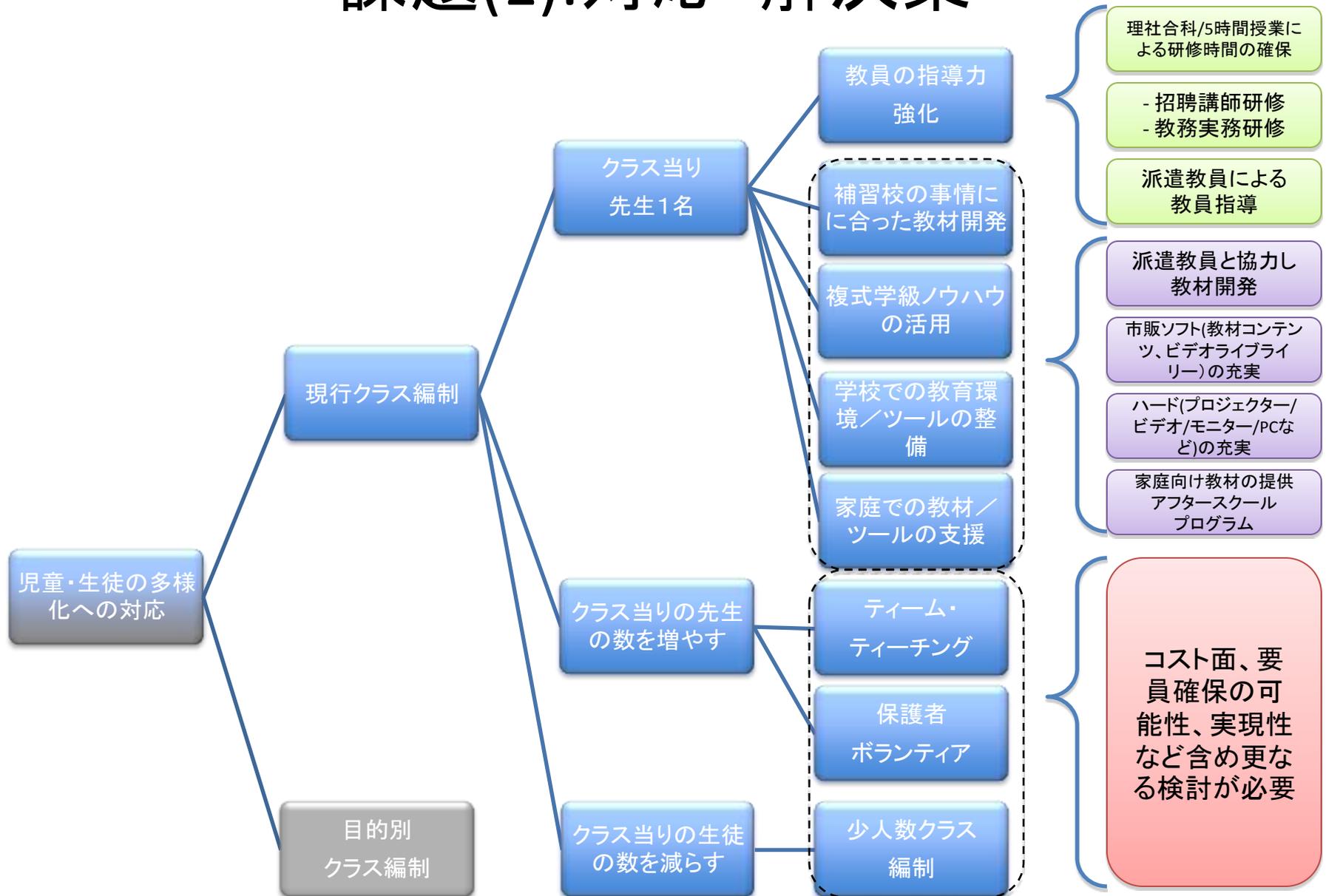
- 限られた条件下で日本レベルの教育水準を目指し、日本の学校文化に触れる場を提供
- 補習校の設立目的
- 日本国政府からの支援
- 様々なバックグラウンドをもつ子供たちの交流、友人関係構築
- 互いに助け合い、学び合う環境
- 帰国後の学校教育への適用

### 目的別クラス編成の導入

- 長期滞在児童・生徒の割合増
- 日本語能力の格差の為、指導が困難<sup>(8)(11)</sup>
- 指導方法/クラス編成の工夫<sup>(5)(6)(7)(9)(11)</sup>
  - 目的別(習熟度別)学級編成
  - 日本語補充の為の特別な学級の設定
  - ティーム・ティーチング
  - 課外取り出し個別指導
- 報告された弊害<sup>(10)(11)</sup>
  - 授業内容の水準の低下
  - かえって子供たちのやる気や能力をスポイル
  - 駐在者が永住者をばかにする差別意識の発生
  - カリキュラムが未確立、経済的の不安定なクラス
  - 我が子は普通クラスに入れたという親の思い

SFJLCの実情を踏まえ慎重な議論/検討が必要

# 課題(1):対応・解決案



理社教科/5時間授業による研修時間の確保

- 招聘講師研修  
- 教務実務研修

派遣教員による教員指導

派遣教員と協力し教材開発

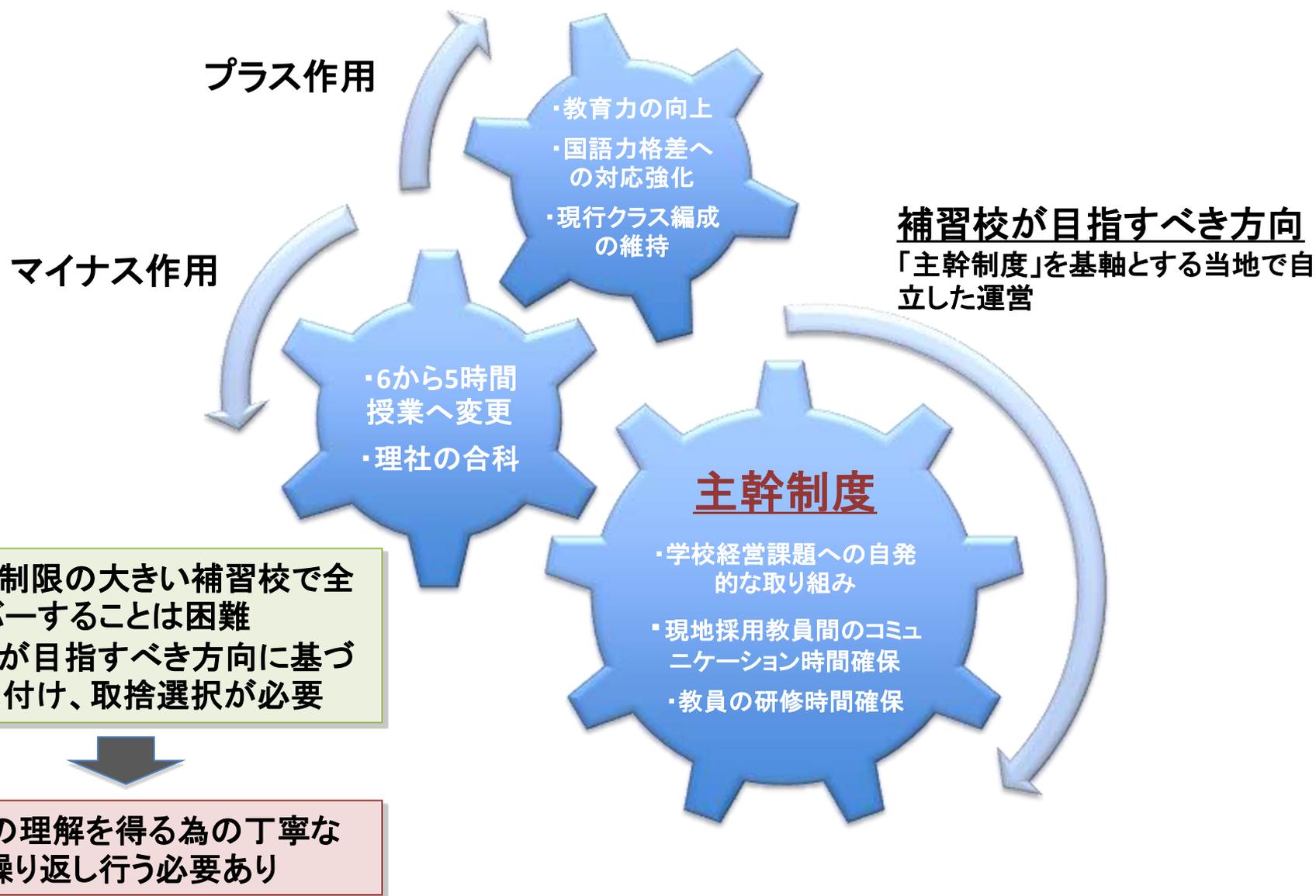
市販ソフト(教材コンテンツ、ビデオライブラリー)の充実

ハード(プロジェクター/ビデオ/モニター/PCなど)の充実

家庭向け教材の提供  
アフタースクールプログラム

コスト面、要員確保の可能性、実現性など含め更なる検討が必要

# 課題(2):現地スタッフによる補習校経営の確立



# 課題(3):保護者・地域とのより良い関係の構築

## 課題(4):学校運営の一貫性と柔軟性

### 課題3 対策

#### WEB2009プロジェクト発足

- ・本校Web Siteを再構築中
- ・HPは、補習校から社会に開かれた窓
- ・日常生活の様子を積極的に開示
- ・社会、保護者からの信頼獲得
- ・学校運営への協力と参加を促進

#### 日本語教育ネットワークの構築

- ・高等部入試規定を見直し、他校生徒へも入学機会を積極的に提供
- ・文科省、海外子女教育振興財団、全海研<sup>(1)</sup>、国際教育センター等との連携<sup>(2)</sup>
- ・ベイエリア日本語教育のリーダーシップを発揮

### 課題4 対策

#### 理事会改革

- ・CNCLに準拠した定款見直し中
- ・中期的視点に立った運営を目指し、理事再任規定を2年から3年に延長
- ・「理事の心得」マニュアル作成
- ・構成(法人会員枠 etc)の検討

#### 「めざす補習校像」の継続検討

- ・「将来像検討委員会」('05年度 理事会)
- ・「補習校の将来をみんなで考えよう」  
(40周年記念実行委員会)
- ・「めざす補習校像」検討委員会(仮称)発足

(1)全国海外子女教育国際理解教育研究協議会 (2)補習授業校派遣教員研究協議会  
- 在外教育施設事務長等会議  
- 北米西海岸補習授業校連絡協議会  
- 海外子女教育研究協力校への参画

# まとめ

- 「SFJLC関係者のたゆまぬ努力と支援」「児童・生徒たちの真摯な学習」「保護者の切なる願いとボランティア」に支えられ、創立40周年を迎える
- 一方、時代/社会環境の変化に応じて、課題もあり
  - 1) 多様化する児童・生徒への対応
  - 2) 現地スタッフによる補習校経営の確立
  - 3) 保護者・地域とのより良い関係の構築
  - 4) 学校運営の一貫性と柔軟性



**'09年度理事会で、引き続き検討/対応して参ります！**

# 参考文献

- 1) 在サンフランシスコ日本国総領事館管轄内の在留邦人数, 外務省
- 2) ベイエリア日系企業実態調査, JCCNC (2006年8月)
- 3) 文科省告示第114号「在外教育施設の認定等に関する規定」
- 4) California Nonprofit Corporation Law
- 5) 海外子女教育だより「気球船」第165号(H15 9月)
- 6) 現地補習授業校の現状と課題, 柴田孝之氏, 元マドリッド補習授業校教諭
- 7) 日本語補習授業校の教育, 森宏介氏, 元シンガポール日本語補習授業校校長
- 8) 補習授業校における教育と経営の在り方, 山下久一氏, 元ダービー補習授業校校長
- 9) 「補習校の将来像を検討する委員会」報告書、村山斉氏, 元SFJLC理事長
- 10) 補習授業校の目的と役割, 栗原裕司氏, 元NY国際交流ディレクター
- 11) バイリンガル・フォーラム設立背景と実践報告, 岸本俊子氏, クレムソン大学